

# 令和3年大船渡市教育委員会第1回定例会会議録

## 1. 日 時

令和3年1月26日（火） 午後1時30分から午後3時10分まで

## 2. 場 所

大船渡市役所 教育委員会会議室

## 3. 出席委員の氏名

教 育 長	小 松 伸 也
教育長職務代理人	柏 崎 正 明
委 員	熊 谷 テイ子
委 員	村 谷 志 保
委 員	鈴 木 晴 紀

## 4. 説明等のため出席した職員

教育教育次長兼教育総務課長	遠 藤 和 枝
学 校 教 育 課 長	佐 藤 真
生 涯 学 習 課 長	熊 谷 善 男

## 5. 議 事

協議第1号 大船渡市教育振興基本計画（素案）について

## 6. 報告事項

（学校教育課）

- ① 「大船渡市における部活動の方針」の改訂について
- ② 冬休みの児童・生徒の様子について

（生涯学習課）

- ① 令和3年大船渡市成人式特設ホームページの開設について
- ② 令和2年度大船渡市生涯学習実践事業「コミュニティスクール研修会～地域に開かれた学校づくり～」の開催について
- ③ 令和2年度市民IT講座「やさしいスマホ教室～LINEではじめる初心者編～」の開催について

## 7. 会議の概要

（教育長）

- ・令和3年大船渡市教育委員会第1回定例会の開会を宣言する。
- ・令和2年第12回定例会の会議録について、質問、意見を求めた結果、教育委員の承認を得る。

- ・諸報告事項について、事務局等の説明を求める。

(学校教育課長)

- ・別添資料等により報告する。

(生涯学習課長)

- ・別添資料等により報告する。

(教育長)

- ・追加報告を求める。
- ・追加報告がないことを確認後、報告事項についての質問、意見を求める。

(教育長職務代理人)

- ・当市では成人式開催を見送ることとなったが、新成人の門出を祝福するため成人式特設ホームページを開設した。新成人代表の抱負、恩師からのメッセージや小中学校時代の記念動画など素晴らしい内容だった。特に記念動画は各中学校の実行委員の方々の努力により、新成人にとって素晴らしい思い出の作品になったのではないかと。
- ・一生に一度の成人式なので、延期を望む新成人も多かったと思う。

(生涯学習課長)

- ・記念動画は各学校の卒業動画をベースに作成した。来年度以降も特設ホームページを開設していきたい。

(教育長職務代理人)

- ・新成人の方々からの反応や意見は届いているのか。

(生涯学習課長)

- ・特設ホームページにコメントを書き込めるようにしたが、現時点では事務局のコメントしか載っていない。成人式の延期についての要望は特に無かった。

(委員)

- ・部活動の方針策定の趣旨等に、生徒の自主的・自発的な参加や、大会で勝つことやコンクール等の上位入賞のみを重視しないことが掲げられていた。すごく大事な点で疎かにすると様々な問題が発生してくる。ぜひ徹底してほしい。
- ・中学校は部活動とスポーツ少年団との連携は徹底されてきている。むしろ小学校のスポーツ少年団に課題があるように感じる。

(学校教育課長)

- ・生徒はあくまでも学業が本業である。保護者の理解を得ながら適切な運営を目指していく。
- ・中学校の部活動は教員が中心となりバランスが取りやすい面があるが、小学校は保護者主体である。指導に関しては、市の部活動の方針に準じて進めることとし、連携は取れているので、生涯学習課、体育協会と連携を図りながら進めていきたい。

(教育長職務代理人)

- ・方針に部活動を補完する活動や外部指導者について示したことで、活動内容や活動時間に関するトラブルの未然防止となるだろう。

(学校教育長)

- ・教育事務所や県と連携し、外部指導者の研修会も行っていく予定である。

(委員)

- ・これからは、部活動に入らなくても良いということか。

(学校教育課長)

- ・その通りである。

(委員)

- ・文化部の活動についても制限されていて非常に良い。文化的な活動にも目を向けることで、多様な活動ができると良い。

(学校教育課長)

- ・岩手県の歴史的に部活動が中学校の文化を支えてきた。指導者の問題もあるが、子ども達の個性ある能力を発揮するため、適切な機会を与えていきたい。

(委員)

- ・自主的となると、指導者の言動は指導的なものではなく、傾聴的な態度で聞いてあげることが重要となり、それが信頼関係の構築に大きく繋がるのではないか。

(学校教育課長)

- ・自分達の課題や目標をどうするかを自分達で考えることから始まり、そこから練習方法が成り立ってくる。指導者は、生徒が分からない部分を教えるティーチングの部分が多くなる。指導者も勉強していかなければいけない。

(委員)

- ・「関係者の協力を得ながら」とあるが、関係者とは誰か。

(学校教育課長)

- ・指導者側の協力を得たい場合は体育協会、運営において育成会と学校が円滑にいかない場合は県の担当者など、課題に応じて関係者は変わる。

(教育長)

- ・やりたい部活がなければ、総合型スポーツクラブで活動するという風になると良い。

(生涯学習課長)

- ・今のところ、綾里地区だけに統合型スポーツクラブがある。これを全市的に結成できれば一番良いが、なかなか難しい。推進していきたい。
- ・学校の部活以外だと、各団体・協会、体育協会となるが、そこが難しいとなれば地域で作っていかないと、学校以外での活動は難しいだろう。

(教育長)

- ・スポーツクラブみたいなものがあれば良い。水泳や陸上協会が開催している教室に参加するというのもある。

(生涯学習課長)

- ・それをもう少し広げ、違う競技もやれると良い。

(委員)

- ・綾里の総合型スポーツクラブは、どこにも所属していない子どもが参加し、様々な文化やニュースポーツなどをやっている。そういう繋がりがあればよい。

(生涯学習課長)

- ・まとめる人や指導者がいるかが問題である。

(学校教育課長)

- ・生涯学習課の総合型スポーツクラブや各協会との連携を図りながら進めていく。

(教育長)

- ・その他、質問、意見がないことを確認後、諸報告を終了する。

(教育長)

- ・開議を宣言する。
- ・日程第1、会期の決定について、会期を1日とする。
- ・日程第2、議案第1号について、説明を求める。

(教育教育次長)

- ・日程第2、協議第1号 大船渡市教育振興基本計画（素案）について、説明する。

(教育長)

- ・協議第1号について、質問、意見を求める。

(教育長職務代理者)

- ・計画策定にあたり、生涯学習課が市長部局となったことによる課題等は無かったか。

(教育次長)

- ・コロナ禍により様々な事業が進んでいない背景もあり、実際の動きが見えないところではあるが、現時点では大きな課題は無かったと思う。

(生涯学習課長)

- ・市長部局だが内容は全く変わっていない。特に計画を策定するうえで問題があったとは感じていない。

(教育長職務管理者)

- ・市長部局に移管したことによる利点や課題はあるか。

(生涯学習課長)

- ・実際に事業実施にあたっての支障はない。市長部局でも教育委員会でも事業の内容は同じである。内容や対象をどうするかということが重要である。

(教育次長)

- ・市長部局となっても補助執行であり、生涯学習に関して教育委員会でも進捗管理をしていることが、円滑に進んでいる理由かと思う。

(委員)

- ・今年度は、実際にイベントをやっていないから、課題を感じていないだけではないか。

(生涯学習課長)

- ・マラソン大会やバレーボール大会などを市主催や各協会との共催により実施しているが、イベントでの支障は無いと思う。

(教育長)

- ・これからイベントの在り方も変わっていくだろう。生涯学習の事業でいうと、喫緊では成人式だが、成人式の在り方について担当者から説明を何度も受けたり、協議を重ねたりしながら関わっている。

(委員)

- ・東日本大震災後に実施していた「心と身体の健康観察」は今でも各学校で実施しているのか。

(学校教育課長)

- ・震災後8年で終了する予定だったが、現在でも全児童生徒で実施している。

(委員)

- ・図書館のレファレンスサービスが充実している。図書の配列なども工夫が感じられ、子ども達への読み聞かせは、読書に親しませる一番の基本だと思うが、これも毎月何回か実施しており、小さい子ども達は興味を持って参加していた。ぜひ、これからもレファレンスサービスの充実を図ってほしい。
- ・博物館の特別展で、津波の歴史など展示しており、大変勉強になった。いずれは総合博物館として工夫を凝らした展示・企画を行い、特別展や企画展を開催してほしい。ただ、場所が遠い。リアスホールなどで開催することはできないのか。
- ・伝承されてきた年中行事などの映像化を図ることは大変な作業となるが、これを残しておくことはすごく大事だと思う。

(教育次長)

- ・図書館長は本日来ていないが、特に企画展など頑張っており、レファレンスサービスについてもっと充実していきたいと言っていた。
- ・博物館はコロナ禍の関係で今年度の入館者数を調査したところ、市外の方が多かった。一方で10月に、おおふなぼーとで開催した展示には300人近い来場者があった。やはり位置的な部分が大きいかも。震災直後は、魚市場の展示スペースに展示していたこともある。貴重な資料が多くあるので、市民の皆さんに見ていただく方法を考えていきたい。今年度、図書館に土器を展示する取組みもしている。小さいことから始めていきたい。
- ・年中行事や民族文化財の映像化は、まだ具体的な段階ではないが、これから失われていくことが予想される行事について残すことも考えながら、保存に努めていきたいと考え、今回の計画に入れた。

(委員)

- ・何かをやる時には、学校が地域の核となっている部分が多少なりともあると感じている。先生方の多忙化解消ということもあり、家庭と地域の役割は今まで以上に大きくなっていくだろう。家庭は子どもが在籍しているので関心はあると思うが、地域の方をどのように巻き込んでいくか、力添えをいただくかが大切になってくる。
- ・特別な支援が必要な児童生徒が年々増加しているとのことだが、支援が必要かどうかの判断はどのようにしているのか、また、どのような支援があるのか。成人してから発達障害と診断される方に接することが多いが、大人になってからだと二次障害などにより、うつ状態の方や犯罪を何回も繰り返す方もいたりする。早めに発見し支援することができたらと思っている。
- ・甫嶺地区にあるBMXの施設は、コロナ禍にあっても非常に賑わっており、他県や他地域の方もたくさん訪れている。小学校跡地を整備した施設だが、あの辺は店もなく飲み物は自動販売機でしか買えない。店があれば流行るし、人口も増えるのではないか。

(学校教育課長)

- ・学校家庭地域の連携は子どもの成長を見守るうえで非常に重要になってきている。まだコミュニティ・スクールを設置前だが、既に学校は地域の協力を得て、わかめ学習や郷土芸能など、地域の方々を先生として学習を進めている。子どもの学習を核にして地域の人が関わりながら、それが生きがいとなり、また地域の先人に学ぶことで子どもの

成長に大きな影響があるだろう。できる範囲で地域の協力を得ながら進めていきたい。

- ・発達障害は研究が進み、名前が変わったり、種類が増えたりしている。いずれの障害も子どもの困り感に、より適切な対応をするためにどうするかを学んでいく必要がある。当市では教育支援委員会において外部の専門的な意見をいただき、子ども達の状況を見ながら、より適切な支援について保護者と対話し進めている。今後、出来る限り早期に発見することが子どもにとって最適であると考え、幼稚園と小学校の連携についての研修や小学校に入ってからギャップを限り無く少なくするため、スタートカリキュラムと言われる仕組みづくりを計画していきたい。

(教育長職務代理者)

- ・各館の年間の講座などの生涯学習情報を体系的にまとめ、年2回広報等と一緒に配布することはできないか。
- ・子育てネットワークみたいな子育てに関する情報も掲載すると、多くの方が利用できるのではないか。

(生涯学習課長)

- ・学習情報の提供として生涯学習カレンダーを作成している。以前は、紙で世帯に配布していたが、現在はホームページでの掲載とし、SNSで欲しい方に、ピンポイントで情報を発信していくことを検討している。これからはデジタルでの情報発信を考えていきたい。
- ・子育ての相談先等もホームページに載せている。

(教育長職務代理者)

- ・紙だと見えるところに貼り、いつでも見れる。ホームページだと開かないと見ないし、本当に興味関心のある人しか開かない。紙には紙の良さがあると思う。

(生涯学習課長)

- ・今年に限ったことかもしれないが、今年度、事業が中止や延期になることが多く、春の発行時に掲載していた事業が全く実施できなくなった。紙の場合、変更が難しい。

(委員)

- ・高齢者の方がホームページを開いて見るは難しいのではないか。

(生涯学習課長)

- ・今回、新しく開くIT講座の申込者は60代70代が圧倒的に多い。スマホの操作を勉強したい方が多いと認識したところである。紙の利点はあるが、市としては資源を節約する方向であり、スマホやタブレットを活用していただきたい。

(教育長)

- ・コロナ禍の影響や世界と比較しデジタル化が遅れていることから、デジタル庁が設置になり、学校現場も含め社会全体がICT技術を駆使した生活を目指している。若い時からやっていたらだが、60歳を過ぎるとなかなか難しい。パソコンやスマホが無い方はどうするかということもある。

(委員)

- ・食育や地場産物及び郷土食を積極的に活用した栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を掲げているが、これはいいことだと思う。以前、綾里小学校の給食で、地元の方が育てた野菜を調理して食べていた。そして協力していただいた方々に対し感謝祭に招待

していて、みんな楽しみにしていた。

(学校教育課長)

・食育については、学校に食育推進計画があり、それを基に子ども達の健康面を計画的に進めている。献立も産地の物を多く入れるなど工夫されており、献立に入っているものから社会の学習に発展させ、生産者の話を聞くなど様々な学習効果が期待できる。当市は栄養士や栄養教諭がおり、食育を推進しやすい環境にあるため、今後も積極的に食育を推移していきたい。

(教育長)

・年1回、栄養士が学校で指導している。資料も低学年には絵で示すなど工夫された授業となっている。  
・さんまや鮭などの同じ材料を使った給食を市内一斉に実施したり、県の委託事業となるが、県食材を使った給食を知事と一緒に食べたり、子どもが地場産品に触れる機会を提供している。

(教育長)

・他に質問、意見がないことを確認後、協議第1号について諮る。  
・全員異議がなく、協議第1号を原案どおり承認する。

(教育長)

・その他、質問・意見、追加議案がないことを確認後、議案審議を終了する。  
・議案がないことを確認後、令和3年大船渡市教育委員会第1回定例会の閉会を宣言する。

会議録作成者 教育長 小松伸也

会議録署名者 教育長

教育長職務代理者

委員

委員

委員